



《老松》京都市美術館蔵 1951年 紙本墨画・二曲一双



《老松》京都市美術館蔵 1951年 紙本墨画・二曲一双

2024
5.1^水 - 6.24^月

Art of Suda Kunitarō - Three Gazes -
Beyond the 130th Birth Anniversary and the 60th Death Anniversary

休館日 | 火曜日

開館時間 | 午前9時 - 午後5時(最終入場は午後4時30分まで)

※初日のみ2館とも午前10時より開館

入館料 | 大人500円(400円)、高校生300円(240円)、
小中学生200円(160円)

★各会場ごとに入館料が必要 ※()内は20名以上の団体料金/近隣施設とのセット券有
※呉市・竹原市・東広島市・江田島市・熊野町・海田町・坂町・大崎上島町に通学またはお住
まいの高校生以下の方は無料。呉市発行のいきいきバス、各種障害者手帳をご提示で無料。

主催 | 公益財団法人 蘭島文化振興財団、呉市、中国新聞社

共催 | 公益財団法人 きょうと視覚文化振興財団

後援 | NHK 広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、
テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅービー 76.6MHz

第1会場

第2会場

三之瀬御本陣芸術文化館
SANNOSSEGOHONJIN ART MUSEUM

蘭島閣美術館
RANTOUKAKU ART MUSEUM

須田国太郎の芸術

生誕130年
没後60年を越えて

三つの
まなざし
絵画・スペイン・能狂言

《鶴》京都国立近代美術館蔵 1952年 油彩・画布

散策マップ

印は蘭島文化振興財団の施設



(駐車場2台)
軽自動車用。普通車の方は
下蒲刈市民センターの駐車場をご利用ください。

広島市内から車で約60分

呉市内から国道185号線を竹原方面へ。安芸灘大橋(有料)を渡った最初の
島が下蒲刈島です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用ください。

指定施設にて1,000円以上ご利用の方に安芸灘大橋の帰りの通行券を進呈!
詳しくは、呉市観光案内所 TEL:0823-23-7845 まで

JR 呉線から電車・バス利用の場合

JR 呉線で広駅を下車。広駅前の道路を渡ったところにある「広駅前」
バス停から瀬戸内産交運行の「営農センター・沖友天満宮行き」バス
に乗り。下蒲刈町内「三之瀬」で下車。三之瀬御本陣芸術文化館へは「下
蒲刈中学校」下車でもお越しいただけます。バスは上下線とも毎時1
本運行しています。

[バスに関するお問い合わせ:瀬戸内産交(株) TEL 0823-70-7051]



アクセス方法



バス時刻表



http://www.shimokamagari.jp/

第1会場

三之瀬御本陣芸術文化館
SANNOSSEGOHONJIN ART MUSEUM

〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬311
TEL:0823-70-8088 FAX:0823-70-8044

第2会場

蘭島閣美術館
RANTOUKAKU ART MUSEUM

〒737-0301 広島県呉市下蒲刈町三之瀬200-1
TEL:0823-65-3066 FAX:0823-70-8022



「画業の歩み」

須田国太郎の初期から絶筆までの代表作品をとおして、画業を紹介します。また、須田がデザインに注目して蒐集した「グリコのおもちゃ」なども展示し、須田国太郎の新たな魅力に迫ります。



「真理へのまなざし」

須田の黒を核とした表現は魅力のひとつです。造形上の芸術的真理を追求した代表的な「黒の絵画」を紹介します。こうした独特の世界観を生み出す創作活動の根底には、物ごとの本質や真理の追求に妥協を許さないまなざしがありました。本章では美学・美術史の研究者としての一面を物語る自著の画論など、文献類もあわせて展示します。

1. 《椿》姫路市立美術館蔵 1932 年
2. 《自画像》京都市美術館蔵 1914 年頃
3. 《模写 グレコ「復活」》京都市美術館蔵 1921 年
4. 《グリコのおもちゃ》三之瀬御本陣芸術文化館蔵 1953-57 年
5. 《希臘藝術史概説Ⅱ》(美術史講義のための準備ノート) 個人蔵 1926 年
6. 《犬》東京国立近代美術館蔵 1950 年
7. 《窪八幡》東京国立近代美術館蔵 1955 年

関連イベント

●開会式

- ・日 時 | 5月1日(水) 10時から(15分程度)
- ・会 場 | 三之瀬御本陣芸術文化館 1 階

※開会式へご参加の方は第1会場の入館料が無料となります。

●作品解説

会場を巡りながら、木本文平氏(碧南市藤井達吉現代美術館 館長)による作品解説を行います。

- ・日 時 | 5月1日(水) 開会式終了後 10 時 25 分ごろ～
- ・会 場 | 三之瀬御本陣芸術文化館展示室
- ・参加費 | 無料(ただし、会場入館料が必要)

※開会式からご参加の場合は第1会場の入館料が無料となります。

●ワークショップⅠ

「鑑賞しながらクロスワードに挑戦！」

三之瀬御本陣芸術文化館と蘭島閣美術館を巡り、本展を鑑賞しながらクイズに挑戦！正解者の中から、各館先着 15 名様(各日)に、グリコのおもちゃ(2000 年以降のモデル)をプレゼント。

- ・日 時 | 5月25日(土)、26日(日)の2日間 / 9時～16時
- ・会 場 | 三之瀬御本陣芸術文化館、蘭島閣美術館
- ・参加費 | 無料(ただし、各会場ごとに入館料が必要)
- ・申込方法 | 各会場にて受付



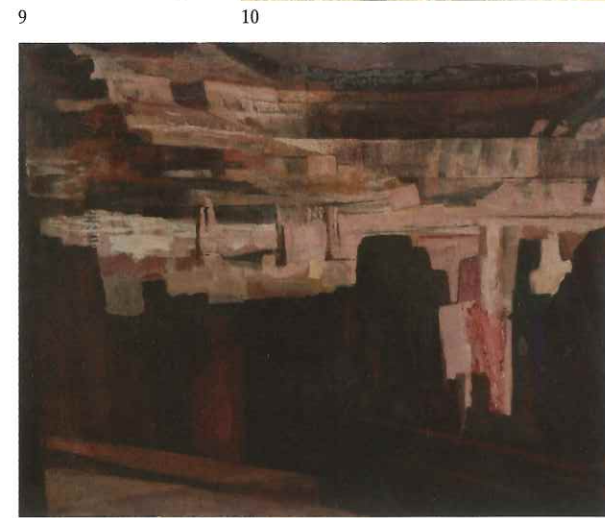
※画像はイメージです。
プレゼントは選べません。

イベントに関するお問い合わせ

三之瀬御本陣芸術文化館 TEL: 0823-70-8088 FAX: 0823-70-8044

「旅でのまなざし」

須田は、スペインを拠点に 1919 年からの約 4 年間、ヨーロッパに滞在しています。その時に撮影した写真と関連する油彩画をはじめ、国内各地を旅した風景画を紹介します。また、旅行中に使用したカメラ、イーゼル、トランクなども展示しています。



「幽玄へのまなざし」

幼少時から能・狂言に親しみ、1910 年頃から謡曲を習い始めました。油彩画と並んで謡曲は須田が生涯にわたって追求すべき課題となりました。彼が残した多くの能・狂言のデッサン(クロッキー)をはじめ、能の世界を描出した作品を紹介します。

8. 《八幡平》京都市美術館蔵 1954 年
9. 《No.3 オートグラフィック・コダックススペシャル》個人蔵 1915 年頃
10. 《サグントローマ劇場跡》(写真) 三之瀬御本陣芸術文化館蔵 1922 年
11. 《遺跡(サグント劇場跡)》三之瀬御本陣芸術文化館蔵 1922-23 年頃
12. 《野宮》個人蔵 1945 年頃
13. 《大原御幸》個人蔵 1942 年

■講演会 ■ 事前申込・先着順

「能のこころにふれる」

～仕舞を体験して、能面を手にとってみよう～

- ・講 師 | 竹内善幸氏(広島市音楽愛好者連盟理事)

西山和則氏(「面匠会」幹事 能面師)

第1部 『仕舞にチャレンジ!!』(13:30~14:30)

須田国太郎の能の作品について、その背景を紹介し、仕舞にチャレンジしながら、能の楽しみ方を学んでみよう。

第2部 『「能面」を手にとってあなたの顔に』(14:40~15:40)

須田国太郎の作品に描かれた能面を紹介し、直接顔にかけて実体験してみよう!

- ・日 時 | 5月4日(土) 13時30分～16時

・会 場 | 蘭島閣美術館 1 階ホール

・定 員 | 30 名

・参加費 | 無料(ただし、会場入館料が必要)

講演会の参加申込方法

参加ご希望の方は、氏名(ふりがな)、年齢、郵便番号、住所、電話番号(昼間に連絡がとれる番号)をご記入の上、メールまたは FAX、はがきでお申し込みください。
申込締切日: 4月25日(木) 必着

[メール] shunran@shimokamagari.jp
[FAX] 0823-70-8022
[はがき] 〒737-0301
広島県呉市下蒲刈町三之瀬 200-1
蘭島閣美術館 講演会係



制作: 西山和則氏

生誕130年 没後60年を越えて

須田国太郎の 芸術 三つのまなざし 絵画・スペイン・能狂言

洋画家の須田国太郎(1891～1961)は「東西の絵画の総合」という壮大なテーマを掲げ、日本の精神文化に根差した日本独自の油彩画のありかたを追求し、近代絵画史に偉大な足跡を遺しました。

京都に生まれ、幼少時代から絵画に親しんだ須田は「東洋と西洋では、なぜ絵画が異なる方向で発展を遂げたのか?」という疑問を解明するために、京都帝国大学及び同大学院で美学・美術史を学びました。大学院に在籍中には「絵画の理論と技巧」を研究テーマとし、同時に関西美術院において、デッサンを学んでいます。

1919年に28歳で渡欧し、スペインのマドリッドを拠点にヨーロッパ各地を訪れ、ヴェネツィア派の色彩理論やバロック絵画の明暗法など西洋絵画の底流をなすリアリズムの表現に関心をもち、探求しました。1923年に帰国して、日本独自の油彩画を生み出そうと制作に励み、1932年41歳の時に初個展を開催しました。これを契機として、ヨーロッパ留学中に交流のあった里見勝蔵や川口軌外の誘いにより、1934年に独立美術協会会員となりました。これ以後須田は、同協会展を中心の舞台とし、意欲作を発表していきます。骨太で生命感溢れる作品群には、会得した理論に裏付けられた風格さえ宿しています。

このたび三つのまなざしを通して、今まであまり語られなかった須田国太郎の新たな側面をご覧いただき、さらなる魅力を知っていただきたいと思います。